

## 実施概要

一般社団法人日本音響家協会は優秀な舞台技術者の育成のため、1990年から舞台芸術の創造に携る音響家の技巧と芸術的表現力を訓練するための「音響家技能認定講座」を実施しています。

1997年度からは、音響家技能認定講座の終了後に実施する筆記試験で音響技術者の能力を査定して、技能認定を行っています。

この講座には、3級音響技術者のための[ビギナーズコース]、2級音響技術者のための[ベーシックコース]、1級音響技術者のためのクリエイティブコース、サウンドシステムチューナーのための[サウンドシステムチューナーコース]があります。

**ビギナーズコース**は、舞台における音響の仕事内容を把握して、基礎的な作業ができるように指導する実技中心の講座です。修了後の筆記試験で把握度を査定して、3級音響技術者として認定します。

**ベーシックコース**は、舞台芸能を上演するための音響装置の仕込み、舞台転換、撤収の作業をする音響技術者を対象にしたものであり、基礎音響理論を学んで、修了後の筆記試験で査定して、2級音響技術者として認定します。

**クリエイティブコース**は、ビッグバンドのミクシングと演劇の効果音再生操作のトレーニングをした後の実技と筆記の試験で能力を査定して、1級音響技術者として認定します。

**サウンド システム チューナーコース**は、ホール音響設備やコンサート音響システムを正しく接続・設置して、電気音響特性とホール音響特性を整合させ、音響機器の性能を十分に発揮させるための音場補正をする職業で、音響装置の総合的な整備士です。

またこの講座は、測定装置の操作方法を学ぶものではなく、スピーカシステムを適正に設置することと、有効なチューニングポイントを見極める技を指導するものです。

受講後の筆記試験で把握度を査定して、2級サウンドシステムチューナーとして認定します。

**1級サウンド システム チューナー**の技能認定は、筆記試験と時間差や音質変化を見分ける聴能試験により査定して認定します。

なお「サウンド システム チューナー」は一般社団法人日本音響家協会の登録商標です。

# 音響技術者能力検定基準

## 1) 3級音響技術者

舞台全般について一般的な知識を持ち、実務の経験を持つ音響技術者の下で、安全に作業ができる能力を有する者で、音響家技能認定講座・ビギナーズコースを受講した後の学科試験によって審査し認定する。

### □講義内容

1. 用語の解説
2. 安全作業の基礎

### □実技内容

1. 舞台機構の解説と大道具係の基本作業
2. 照明機構と器具の解説とスポットライトの取り付け作業
3. 仕込み図の読み方
4. 音響機器の仕込み作業
5. 音響機器のチェック方法
6. 音合わせの実際
7. S RとP Bの基本操作
8. 撤収作業

### □学科試験

1. 舞台用語
2. 音響用語
3. 照明用語

## 2) 2級音響技術者

音響技術者として必要な基礎知識を持ち、他の分野の人達と協調して安全に作業でき、チーフエンジニアまたはオペレータの指示に従って正確かつ迅速に作業を行える能力がある者で、音響家技能認定講座・ベーシックコースを受講した後の学科試験によって審査する。教科書によって事前に学習をさせる。

### □講義内容

#### 一般知識

1. 音響技術者としての基本的な心構えと、他の分野のスタッフとの関連
2. 上演される内容についての一般的な知識

#### 専門知識

1. 舞台について
  - 1-舞台機構や設備についての知識
  - 2-舞台音響設備についての知識

- 3-劇場やホール以外の会場における設備についての知識
- 2. 技術用語
  - 音響用語を含め、舞台上で用いられる技術用語
- 3. 音響機器
  - 1-音響機器の種類と性能について一般的な知識
  - 2-音響機器の正しい仕込み方法
- 4. 基礎的知識
  - 1-電気工学、電子工学などの基礎
  - 2-聴覚心理、聴覚生理。
  - 3-音響物理、音響の性質などの基礎
  - 4-安全作業、安全に作業

### 3) 1級音響技術者

音響技術者として高度な知識と十分な経験および熟達した技能を持ち、音響デザインを的確に理解し、チーフエンジニアまたはオペレータとして円滑に業務を遂行できる能力がある者で、学科試験と実技試験で審査する。サンプル音源で事前学習させる。

#### □学科試験

##### 一般知識

- 1. 芸能および社会事象全般に対して、一般的な知識について
- 2. 上演する芸能と音響との関連について十分な知識について

##### 専門知識

- 1. 舞台に関する知識
  - さまざまな舞台の機器全般に精通し、その運用方法
- 2. 技術に関する知識
  - 演劇やコンサートにおける音響の手法
- 3. 基本的知識
  - 1-電気工学、電子工学
  - 2-聴覚心理、聴覚生理
  - 3-音響物理、音響の性質
- 4. 機器の知識
  - 1-音響機器の全般にわたる知識
  - 2-舞台上で用いられている音響機器
  - 3-音響機器の機能と性能
- 5. 安全作業
  - 1-仕込み中および上演中の安全作業
  - 2-舞台における安全に関する法規

#### □実技試験

- 1-ビッグバンドの音楽性を理解して、ミクシングしているかを判断。
- 2-演劇の演出意図を理解し、音響デザインに従い、音響操作によって音響デザインを

的確に具現できているかを判断。

#### 4) 1級サウンドシステムチューナ

筆記試験とヒアリング試験のみで能力審査を行う。

筆記試験

正しいチューニング方法について出題。

ヒアリング試験

位相、時間差等のヒアリング

#### 5) 2級サウンドシステムチューナ

音響機器の正しい接続方法と設置に関する豊富な知識と鋭い聴能を持ち、有効な音場補正を行うことができる音響技術者。

専門知識

1. システムデザイン

1-アコースティックデザイン

1.1 建築音響の基礎

1.2 スピーカシステム設計の基礎と応用

2-システムインテグレーション

2.1 システムインテグレーションの基礎

2.2 レベルダイヤグラム

2.3 システムプロテクション

2. チューニング

1-測定方法と理論

1.1 測定のための基礎知識

1.2 測定方法原理とその特徴

2-イコライゼーション

2.1 イコライゼーションの目的

2.2 イコライゼーションのためのハードウェア

3. 調整の指針

3.1 アベレージングと特異点の検出

3.2 マイクロフォンの設置場所選定

3.3 EQにより調整を行うポイント

3.4 周波数特性の見方

1997年4月1日施行

2003年6月1日改定

2014年4月1日改定